

江戸破子温故名跡誌卷之六 沾凉纂緝



葛飾郡西葛西領

宇深川 洲崎 六間堤 海ノ上名所

同

廿一 本所 牛嶋 猿江 大嶋

同

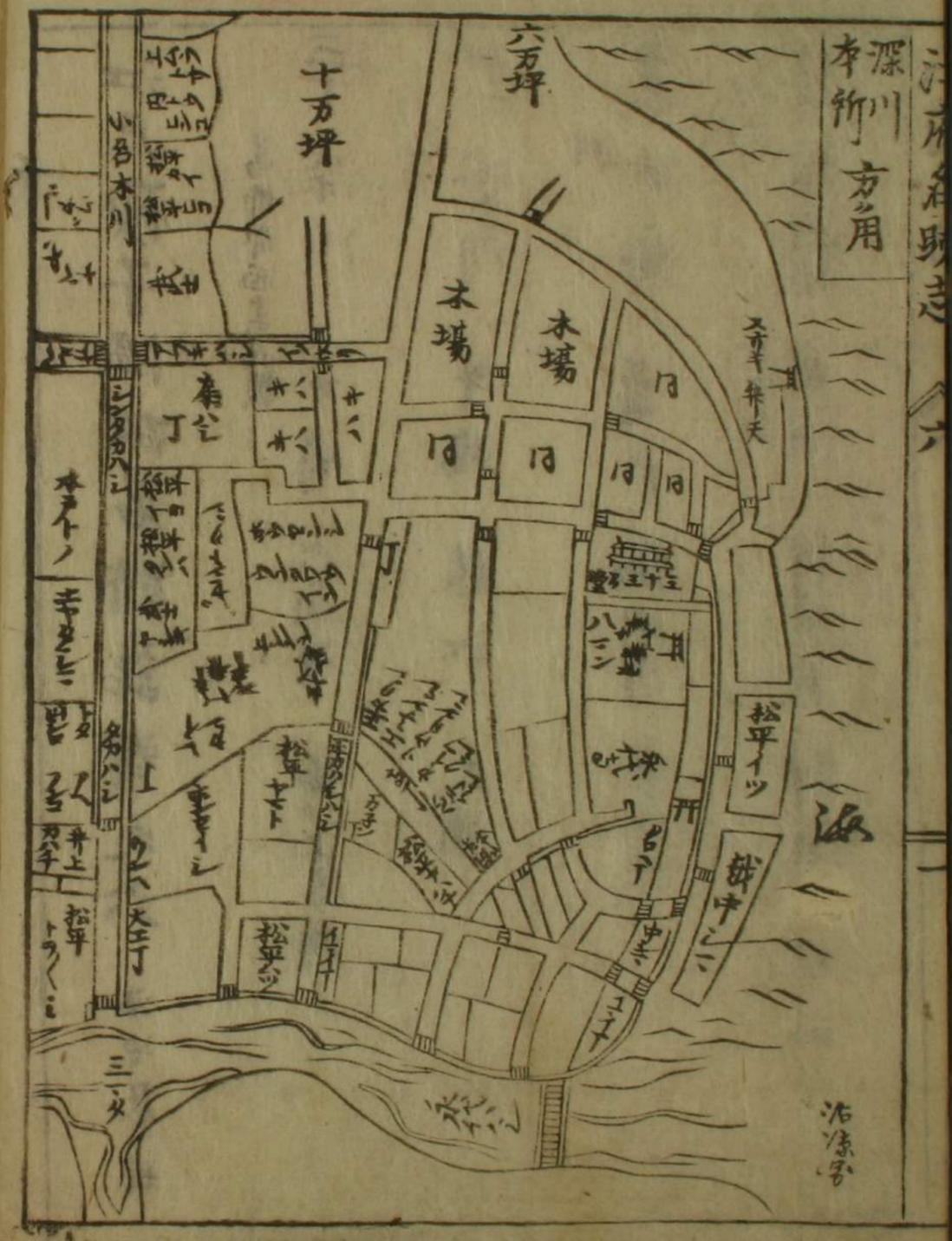
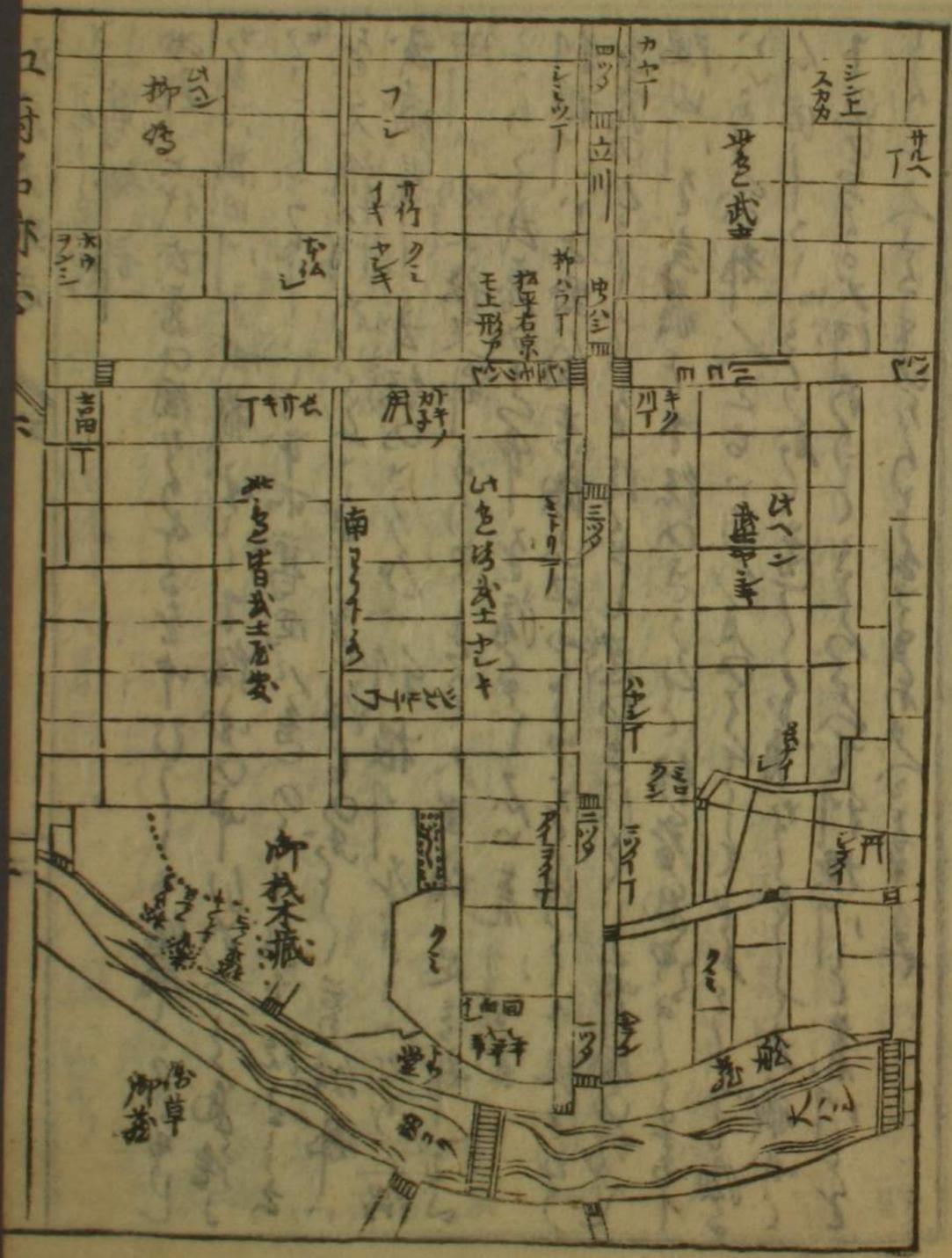
廿二 中郷 龜戸 隅田川 木下川

追加

葛飾郡

廿三 下総国 真間 国府臺 袖ノ浦 中山

江戸名跡



三 深川

六間渡 洲崎

富岡八幡宮

又稱河八幡也 別當大栄山永代寺金剛神院

鎌倉鶴岳神社

左右伊勢春日也

中興周光河内梨

名所記曰

神躰菅神の御作源也故を崇むに後千葉の御子つり是利も氏つりつりそれより隆治基氏指氏内官依之板敷敷一右田乃漢少く信にこむに後寛永元年の頃長威法印重友の事ありて永代持りよるを建立し一は八年いあらしく成就に二千年八月十五日を以て及これらなる慶每や年の頃は務費首月切月せく宮寺とかなるに年の秋社ありて流瀨馬をけり

東鑑二卷

治養五年辛丑五月十三日為鶴岳若宮宮作其本

更有其沙汰工肥次郎實平大庭平太景能等為奉行又云同年七月八日淺草大工泰上之間被始若宮宮作

東鑑九卷

文治五年四月三日鶴岳祭二品御祭宮馬場儀

馬長

流鏝馬

十一

競馬

十一

番

下略

又礦石集

云和列生駒在野寺乃用之宝山和尚正保三年

十八歳よりして永代寺周支の異梨の中より寛文元年

臘八の夜宝ふれ為靈夢のりあり後多し大隅守と合神

不日して社成始を今の際川富岡八幡宮とて

万治三年の夏御室の文月光沙社奉湯下向より

初は天下安全の流行会ありありと後院の法保

永代の業久一と云の傳のありてぬ社あり

當社四隅鎮守

東比須宮

丑寅

摩利支天社

未甲

荒神社

辰巳

大勝金剛社

戌亥

おの守社境内をこ

難と五町三所のるにあり

寺院

加徳院 多門院 吉徳院 大徳院 海徳院 毛源院

△哥仙橋 正徳の頃園方と云ふ海傍の寺道二十六年の

さくさくをうらやまのゆかりのゆかりのゆかり

海へゆかりの影と 桜の世 常盤潭北

△つ島井 十らふ三や下酒のあり世に飛伏寺八函文といふ井

より門前所茶店より 醜助 蛤 尚尔のる物なり

○三十三間堂 八幡八東 堺屋久左衛門持

奉る千手観音 京大佛 三十三間堂をうらやまするの堂間

より 京間田舎間のさくさくし 堂の 一のま世通 矢不火

概京の松方より 一の海軍のありえ流年中に長いなる

△堂八のむららむ起まの対奔龍の波門棟を合持して

課所不始の杖をさくさくし 止るをねむりて巧

成勢もその切よりく 螺屋の堂地くさる今いなり

堂宇の以ゆの螺屋よりいをはる

○洲崎年才天 八幡の京 別当海潮山増福院吉持寺 隆院未

用基知是院隆光大僧正 九福正己手記主

隆光僧正字の榮春河辺氏なり慶安己丑二月八日生れ入福元年の

知是院の 二年を修く神回想よりなり後花院よりなり

當院の海をさくさくし 一の房総の道山浪をかきぬ

洲の道の最難は江越ぐらあり 舟ののこし 同さるる根の音

小ははらむ 絲ののこし 佳景の世なり

○満穂稲荷社 別当知光院 小川左衛門

○佐賀稲荷社 別当清光院 小川佐賀守

○永代橋 八幡の道をあへる

○熱中橋 永代橋の海に 都京熱中ちるなり 一の舟し

○本場 洲崎 舟天のひら 小川の舟 杖の同産場なり

○六万坪 ○十万坪 本物のびり

○金巻橋 本切を入舟丁くまら

○平野橋 入舟丁久松丁

○洲入橋 三十三番番入舟丁

○芝草橋 扇所入舟丁

○芝草橋 永代舟丁

○板田橋 船下

○永居橋 永代舟丁

○田中橋 船下

○龜久橋 龜久丁

○青海橋 龜久丁

○千鳥橋 船下

○緑橋 船下

○築橋橋 本物のびり

○大原橋 大原舟丁

○備前橋 久松舟丁

○要橋 船下

○石橋橋 永代舟丁

○板橋橋 船下

○橋永橋 船下

○吉松橋 船下

○五松橋 船下

○お生橋 船下

○新橋橋 船下

○菊川橋 船下

○元本橋 結草の色びり

○住吉河原 大川

○大橋川

○小橋川

○阿宅丸の池

○舟玉祠

○高橋

○六万坪

○神明宮

○伊予橋

○猿子橋

○六回橋

○上回

○六回橋

○上回

○上回

○上回

○上回

○海乃上名跡 漁獲の場

○中川 一リ半 川口 九ノ瀬 取口 高下経の名地

○丸瀬 中川口 ○東瀬 丸ノ瀬の東に春の釣場 秋の赤い汐の
みらるる河幸あるあり ○横瀬 丸ノ瀬の西に ○中瀬 ○下瀬

○小瀬 中川の先 汐あり 大瀬あり ○大瀬

○取取 丸ノ瀬の西に ○幕末 取取の西の言

○出例 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に

○三牧例 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に

乙卯 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に

○横倉 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に

○仙又 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に

○藤 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に

の底に 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に 丸ノ瀬の西に

○目ヶ水増 極りの平間を流す ○新売洲 ○大洲

○井戸下 極りの平間を流す ○新売洲 ○大洲

○佃沖 釜瀬と云う東を東河洲 西を西河洲と云

○釜瀬 ○東河洲 ○西河洲 丸ノ瀬の西に

○三ッ合 東河洲の己午のうろ六七下り 丸ノ瀬の西に

○出例 ○蛤崎 ○間の例 出例の例 ○碓氷

○示例 ○榎木 ○真清

○弁天沖 ○上総瀬 ○本港

○殊地例 佃表し 御渡り殿まの言ハ十八夜後 丸ノ瀬

○三尺瀬 ○敷の丸通 ○未登 ○源系瀬

○天王洲 丸ノ瀬の西に ○生貝

○白洲 丸ノ瀬の西に ○冬城崎

両金橋東港釣針師葛三郎西より方角の繪圖ありを以て考へ記す

○浄土宗 佛閣

深川乃内
寺以五石

○道本山靈巖寺

十八種林の因

同公檀蓮社雄譽上人松風天巖和尚

上徳園小糸の産里見氏なりい城の東諸以大か巖を建之

廿介あま終く四衆を勸をして一簣をてこひん

者より則十念をこひてをすく血脉をあふて諸縁せしむ

不日ひて唐門裏して隆世なり今の其本をこし

殿堂は舊の後寛和十八年九月朔日洛の知息院をかぬ

宋より十時二十歳

第三世珂山和尚の代より即唐下厨乃回縁の後世なり

是又海濱なり珂山の門人珂碩に令し

觀音堂 江戸三十三 廿九番 不動堂 勢至堂

江戸世苑 五番 念仏堂 取化寮 津田院

塔院 正覚院 榮香院 長專院 深松院 春粮院 津島院

○竜徳山雲光院光巖教寺

知息院未 寺領五石

同公運蓮社澄峯 潮香信入和尚 八世 叔往草譽上人要阿和尚

△鷲巖寺 院近乃侍女阿茶局建之是位尼

高院佛閣遠之乃河 御より我本を

御上乃沙遺物 一住尼の賜り又黄金の教

して太の昔令を奉るなりし昔慶長十六年

元和七年六月十八日 後水尾帝 女御沙入内局尼に任

奉りしなり 一住尼に任せり

慶長十三年 一住尼に任せり

御よりし是則一住尼の院を賜り 二品教王良忍乃

祭野の地を合所はく八千坪地を以て 此額高院は

釣命にりくも利長門中夜福徳左衛門守 五尺六尺

の幣より相馬回縁の後を以て 不勢り五十八百余坪

同法相五三年今の世にり 四千五百余坪 介い四百余坪

卵塔場田中徳庵高青洲する余の沙身重なり

所著下の便の高き徳郡西ノ系村の内なり

用山主人の當國崎玉歌遠西上と作久村の産天正七年に生氏澄
不洋在連門多茶乃臣の未し小増上寺十二世教智國師の身
子し雲光院住持二十二年後洛了真石合續光明寺住持十一年
養安の唐宣四月十三日遷居瑛院清々院閑居して并十二世
上作久村地有寺も高用山の教立し則高寺の末寺

塔改 法藏院 津波院 良正院 正光院 三光院
正光院 法心院 公深院 普安院 仁善院 信善院
樹光院 惠法院 津波院 法光院 津心院 固貞寺 菟老居

當智山室願院奉誓寺 如恩末 寺成寺云 三川

用山大登上人 中興行卷上人 歡喜堂 江戸三十三ヶ所 廿八卷

石地藏堂 妙心仏行 妙心佛の弁にあり何人の事
なるか此名承あり享保三は七月十五日より一都一々
かうくは直生新この巻少自然と紀集一湯御也

この起下天然に当り思議まへしはる一年の堂を建て
案出まへ今の中をく狭あり 法を供え 香水あり

高寺ハる各所上寺別はあり天和二年八月正百朝辨三使
到着は日廿七日登城九月十三日祭足月来十二月廿八日
文書寺より火起り願堂原焼し焼く惣来は使し
塔改 法雲院 常徳院 勝徳院 仁月院 九宗院
兼文院 法林院 津波院 正徳院 良心院 高安院
礼徳院 孫名院 法心院 自朴院 松雲院

幽遠山雅照院主信寺 月未 寺所

用山還通社奉卷上人去故大和尙 寛永六己巳年一寺改智長を以り
て起まへし 奉寺阿延院 惠心僧初未朝殿傳なり

崇源院殿御寺一依あり山々々々今も別殿あり
△江の橋一俣分身の并才天年蓋は
用山の信原勝利寺十二世賜法上人し
寺中 信津院

○双嶽山親源院心行寺 增上未 寺中

用山園登上人 中興三天上人富是天和尚 就住遠登上人

△菰色弥陀 寺中 乾定院 正壽院

○深川山貞徳院正源寺 日未 馬吉一

用山南登上人 寛文十年九月廿二日 就住轉登上人

○大音山善流院正源寺 正源寺未 寺一

觀音堂 圓淨檀金千年源形類の持以 江戸三十三

○日蓮寺 永徳院法祥寺 西長蓮慈阿丈 如曼 師也新田

為寺住古ハ八重洲の住あり今ハ正月三日に社敷をたてし

これハ一 齊城らうれ更ハ初春三日に遷居せし例ハ

そのころより上寺所はあり元和年中今の地をたて

塔院 常照院 宗心院 白毫院 良信院 高徳院

蓮宗院 玉樹院 高求院 貞照院

○禪宗佛圖

○永壽山海福寺 首樂流 玄侶未 寺中

用山隱元老和尚 万治元年戌土月記立 中興獨育源和尚

○三聖山惠然寺 二谷月桂寺未 日下

用山別傳今禪師宗文和尚 上列里庵未 佛道寺

○福聚山恭暹寺 中興千山和尚 現住元麟和尚

用山潮音和尚 海福寺未 日下

○大安興國山万祥寺 本寺火間地藏 身月廿四日識法

○慧日山真光寺 五法未 日下

用山潮音和尚 中興大洞和尚 就住親松和尚

○蒼龍山宜雲寺 京如心寺未 日下

用山阜福和尚 元禄七戌年記立

廿一 本所 牛橋 篠江 大橋

○辨才天社 一ノ橋南の港 惣檢校支配

○深川八幡神 惣檢校秋山氏の起立今に於ては惣檢校の橋

○深川八幡神 神并馬土神像 廿天ノ南陸

○御船藏 一の橋ノ新大橋ノ名大川ノ

○堅立 川 幅十五六間 深川より中川へつづく

○一ノ橋 九本十間 ○二橋 九本九間 ○三橋 九本九間

○中橋 新大橋元 ○四橋 九本十間 ○五目 新大橋

○六目 橋ノ名 一の橋ノ名 支川 橋ノ名 橋ノ名

○撞木橋 一の橋ノ中ノ橋ノ本ニ方ハカノ名ト云ク

○扇橋 一の橋ノ小名 扇川 通新橋ノ名ニ方ハカノ名ト云ク

○元竹藏 日向流の... 今に於て形跡無ク

○駒止橋 支國橋の東港 橋ノ名ト云ク

○乃小橋 一の橋ノ橋ノ名ト云ク

○川葉の草 一の橋ノ小橋の草ナリ 凡の草ナリ

○おー川葉の草 一の橋ノ小橋の草ナリ

○婿の腰 大川ノ一の橋ノ名ト云ク

○首尾のね 一の橋ノ向野港の川ノ一の橋ノ名ト云ク

○駒止石 一の橋ノ名ト云ク

○御船藏 一の橋ノ名ト云ク

○本所の馬場 一の橋ノ名ト云ク

○割下氷 小まうりたあ 旬より下りておるありては

かゝりけき 河内川の村ありては

○上野原 河内川の村ありては

○横川 三河子村にてありては

○撞撞堂 ありては

○逆井 中川にてありては

○中川海番所 中川にてありては

○砂村新田 小まうりたあ

○五ヶ松 小まうりたあ

○金屋 小まうりたあ

○大徳 小まうりたあ

○珠江 小まうりたあ

○牛橋 小まうりたあ

○浄土宗 佛閣

○因豊山回向院 増上末

開山増上寺貴屋上人 才二世信養上人

高院の明庵下酒孟春十八九歳の火災で死亡せし

人の亡魂は

修不判念佛の地方

大和南初小石川 知希寺の行儀

のより衆人通徳をまゝに推して

事、ゆをゆゑに

今堂首の蓮池をまゝに

高院にある下の佛像は

此院に寺号あり。世俗無縁寺と号する事ハ其創のまゝなり。今の中堂の礎ハ一堆の義塚の傍に在り。法身殿の礎ハ金州の地を毎堂に堂ハ今の方丈の地を向て建てり。天和二年十二月廿六日大災あり。後堂を壞れし。金佛を金州の地に遷す。元禄十六年十一月廿九日大災あり。金州の地に遷す。此の如く四世の難矣。上人秘經を著し。此の佛を縁に堂前に立佛形を造り。中堂に多量に今の中堂なるなり。

△鎮守并方丈 藁芭并天。弘法大師の御像丈二臂の像

用とす。人勸修金佛の間千躰堂に此の像あり。此の像は

入々捨あり。上人の遺像なり。大師の御刻なり。此の像は

河原を彫刻し。寺の西南に在り。佛は神なり。此の像は

山門 棟上に觀音の像あり。官野清光の遺像なり。山門の元禄十六

乃大災あり。此の像は觀音の地蔵堂に在り。此の像は

△兩堂臺子 上宮太子二尊あり。此の像は五世忍空の遺像なり。此の像は

△馬頭觀音堂 响鷹羊中。公儀の御馬を葬る塚の傍に

獅子無畏の像を造り。此の像は

△三佛堂 万治年中町御奉行より穿死刑死の七塊の石

以一寸の堂を建立あり。此の像は

一基道あり。此の像は

此堂に在り。今日乃此像をくく。此の像は

△別院 小塚あり。此の像は

○大方の廣佛院華嚴經寺 竹通末

用山向蓮社一芸上人信用和名 現住明空上人普剛和名

異基のじ 毎月四衆をあげて華嚴を講あり

△宗師也年 真心傳教の心 具感神徳の心

○重光寺 用山和名上人是智和名 ○光徳寺

此の像は

○當日山西光寺 照明庵 知恩未 所舟房
開山源建社信天宮故更村大寺 記住八世河峯上人
身長十一丙午小林久西を之 觀音堂 仁今下之示 廿七番

○禪宗佛閣

○天恩山羅漢寺 黃榮 五ッ目
中與象先和尚 教住榮朝和尚

開山鉄眼和尚 本号 教住榮朝和尚

元禄八乙亥八月朔日大圓廣慧国師開眼其月心号有号

乃額才多少中與象先和尚 乃稱中中の勸化を之のて

本堂羅漢堂方丈木の位堂山もくく建立あり 享保年中

堂信娘ゆりあり

毎月觀音懺法 朔日 大般若此所 十音

本号 胎立大佛 石座獅子白象九尺九寸 岩組に登り落びし

羅漢の座傍二尺寺く階壇の上段に立つ堂中堂以つて修め

○真言宗佛名

○万徳山彌勒寺 新義觸頭 寺以百石 二ッ目
高野の山の上寺所はあり 天和二年此世にあり

塔以 法樹院 座上院 正福院 空林院 香史院

○高野山大法院 高野山佛殿別當 一ッ目
本号 茶所 如來

法門の南都大佛殿舊進所あり 現住義國法印

○勝智院 大徳 空塔寺 空史

○曼王寺 寺以百石 燕江

○法花宗 佛名

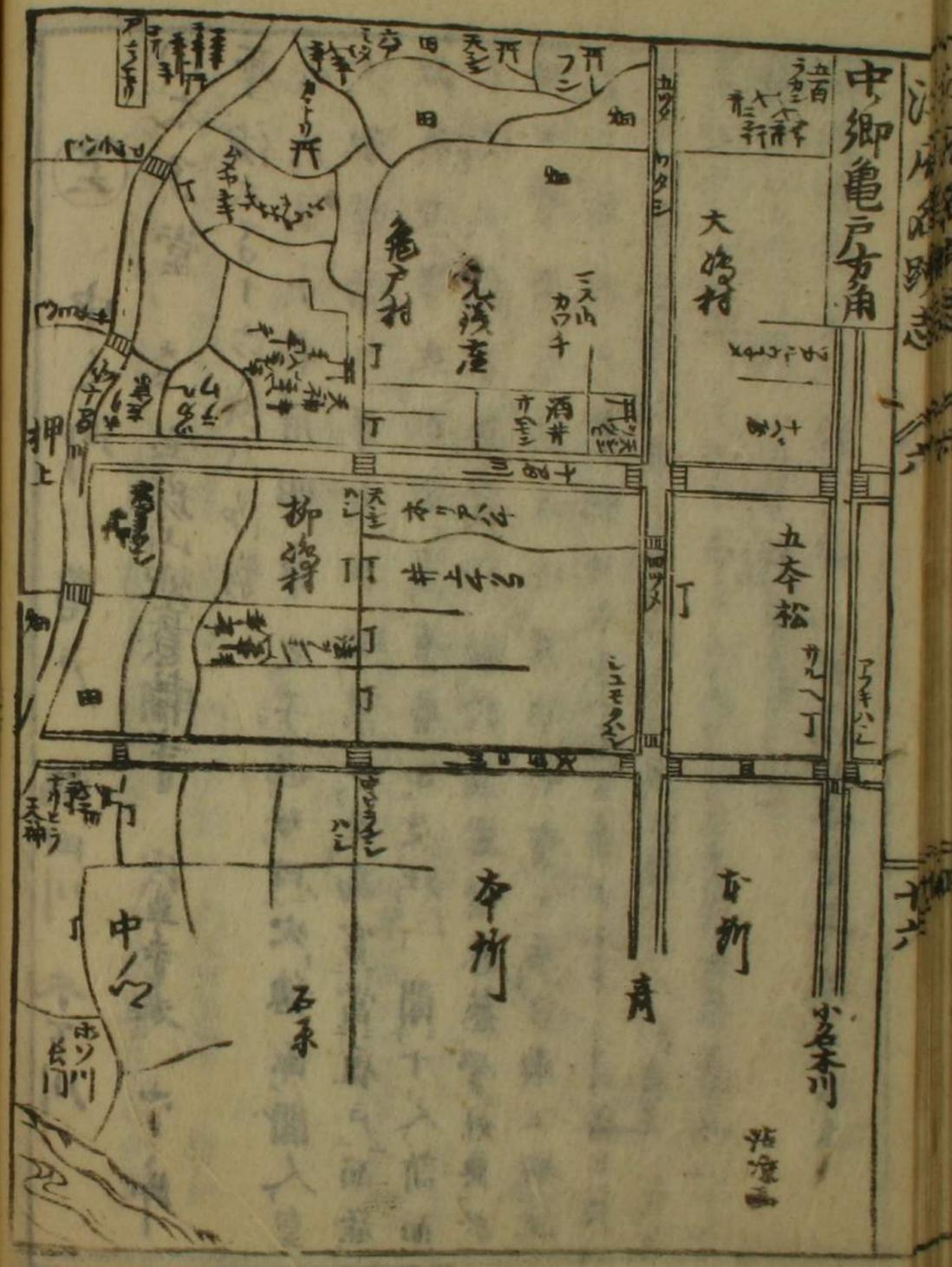
○正覚山波源寺 山寺あり

開山中老僧天目上人 建武年中多勢

○照法山本久寺 下院寺未

開山

教住十世自院院日住



○業平天神社 業平山東泉寺南藏院 天台 中々

△聖観音並業平朝臣を祭ぐ云 同基村能法印

△月光稲荷社 本社の地主なり

△業平竹 齊男墓し 業平塚 つのくし舟の形と云

九世別當良海法印靈子の事ありて南藏院と云

〔社説〕曰業平朝臣平枕又んしてひりしのかみりしのを

行ふとゆふは河津世のなれにをしをいふと三尺の彫刻

しをを里人ゆふを建し傳の傳をいふ業平た神と云

業平と云ふはむいしは江原山云業平の屋敷平

ゆいし二子の后をいふもいふるありし伊勢物語に

いふとゆふは河津世のなれにをしをいふと三尺の彫刻

なりと云ふはむいしは江原山云業平の屋敷平

西のつとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の

夕まや田も足ぬりの神をくし 其角

○三圍山真珠院延命寺 天台 小徳代地

延命不動尊 中つ尾所 中氏度六作し

此のたつとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の
正保四年九月高野山蓮華定院の行儀 盛法印
俱利伽羅不動の像を祀るのちの同行勝上人
の撰記に云く王の化教をまことあまのつとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の
爲る令りしてを信をうすに於るんを叶を中氏度六作し
此のたつとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の
旨意を書て夫のつとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の
し、今の推の東つとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の
寺の氏と此のたつとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の

牛頭神 牛頭天王 別當牛室山明王院寂勝寺 眞常

貞觀二年庚辰夏覺大作の勸清く寺神進雄神

神社略記の牛頭天王とあり牛頭天王則素戔嗚命なり

諸社振元記 中間 大政所牛頭天王素戔嗚尊垂跡東向八王子

五男三女西向 稲田姫本御共ありて牛頭天王と云く

牛頭神と云く牛頭天王と姫本所共ハ夫婦の神なりと云く

此の神皇のつとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の

清和天皇の皇子を奪ふ事あり八王子のつとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の

名所記 建長のころ浅草川より牛鬼出く人民を之を牛鬼

と云く一社の神といふは下の浅草神といふは上のつとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の

浅草寺 如牛者 忽然出現奔走于寺于時寺僧五十口討

食堂之間 集會也 見伴之惟異廿四人立所 受病癩起

居進退不成 居風云く七人即座死之負齋らる享條す凡

八百六十余年 建長四百八十年余く才鬼のつとめくこのつとめを其角やと行ふとく人の

寂勝寺に石研あり通年土中より掘出せし

表に秋の傳

青石大り尺余中亭

奉造五叙迦傳一經
貞觀十七年三月日
法華千部明王院

至くく巨風ありて海船がらるるし

御旅所 小舟所 祭に九月十五日隔年 中所の徳経ありし

牛空山明王院寂勝寺 天台 上野末 北下所

貞觀元年の事刻し 不動明王 良井僧正作

實永の頃迄く所成あり所殿の跡と云ふる 山王をまつて小祠と

神明宮 是朝の神宮寺 寂勝寺地 10石

法皇の旧む云牛空山の時代と云 浄土宗の改門信阿の古列
忍城下河田大中ちん金剛大六の忍地通と一奉祀の後の徳
和のいあ寺の事まにたんと回向院の門書ありく舊地あり
中平あり其初も、後とくく其門人馬所のいありしと
法くあ寺再興を計し、其の事傳しとあ秋りて志淑都より

秋葉大権現 兩社勸清 別當千葉山満願寺益帶 法世村
千代世福荷社

法名年代不詳 凡正應年中の事刻しと云四百三十五年

神水 松の控より涌出にともく病に治あり

千葉山満願寺 真言 三空院末 中ノマ

庵崎 法世村ちんを編名のををを 青基法師

白髻大明神 別當寂藏院 青崎の月

法名年代不詳 ありとも法古よりの中よりと云

○天台宗 佛圖

喜桂山成就寺 齋末 中々用山法印舜慶正和三甲子起立

長景山清光寺 大を ○東栄寺 王寺

用山後能法印 現住純栄 ○齋王山松林寺 大を

醫光山泉竜寺 大を ○高竜山普賢寺 大を

用山宗賢大和尚中真慶唯大和尚の起立し

○長勝寺

中ノノ ○永泉寺

押上

○弘誓山正寺

押上 ○常照寺

押上

○天羅山真盛寺

天台律宗

押上

○自然木出山寂迦佛 隆穿山出山寺

押上

○七觀音

宝松山金性寺 周山法印朝長和尚

押上

○宝壽山遍照院長命寺

上野末 牛山首のり

慶長元 濟廣野の河原に於て此菴を築きて此菴を以て命を授けし事あり

河原を以て命を授けし事あり

所より河原の命を授けし事あり

命を授けし事あり

命を授けし事あり

命を授けし事あり

○禪宗 俳商

○牛頭山弘福寺

貞觀流 周山年十和尚

牛山前降

○鎮護山碩運寺

禪宗 曹洞

石平町

周山附山宗為大和尚

慶長元年創

況佳聖德峰泰輝和尚

△新美稻荷大明神

本寺聖觀音

此菴は徳古より石原の徳寺より慶長元丙午此菴を以て創り

境内東南二百有旬十八間し凡三百九十六坪余

館林茂林寺未助凶大勢寺第五世消之堂乃和尚此菴と再興

同二年十一月正木内膳九取六最乃此菴を以て創り

全一也菴主

○向東山天祥寺

小松代地

○白牛山定林院

秋葉

小松代地

松浦家建立

○真源山松茂寺

中ノノ

○即現寺

月未

○東向山秀命寺

延命山榮香院

遍教末あり

○浄土宗 佛園

○常在山靈宇二尊教院

十八檀林

寺位五十石

上水小

本寺河弥院 慈光大師の知恩院河門至尊空法親王の指
さるなり尊空法親王の五帝村の寺なりつる寺なり

御廟堂境内にあり 觀音堂 念佛堂

此寺は古の湯治場なり慈光大師の御廟堂境内にあり

此寺は古の湯治場なり慈光大師の御廟堂境内にあり

此寺は古の湯治場なり慈光大師の御廟堂境内にあり

此寺は古の湯治場なり慈光大師の御廟堂境内にあり

此寺は古の湯治場なり慈光大師の御廟堂境内にあり

此寺は古の湯治場なり慈光大師の御廟堂境内にあり

此寺は古の湯治場なり慈光大師の御廟堂境内にあり

此寺は古の湯治場なり慈光大師の御廟堂境内にあり

○長行山大雲寺 押上 現住淨蓮社殿上人

○瑞松山靈光寺 日下 岡山木食堂上人

○法華宗佛閣 寺中 衆想院 量光院

○平河山法恩寺 本国寺末 寺領五石

○隆江山長健寺 中々つ系在所 牛込光照寺末

○岡山周養上人 中真天曉和尚

○岡山梵譽上人貞存和尚 寺中

○七橋の海 ひし 此色の大川に七橋あり里民の云は古
本藤下伝の也子大お七人あり而して橋と云うて後遷に
して亦くの水底よその橋杭の多あ今にありと云

○若宮八幡宮 葛西 別當東正院

文治五年源頼朝と奥列泰衡 遠征の時けは赤を奪り所
而し形あり油津乃後造管ありと云

東鑑六云 文治五年七月十九日已尅二品為征伐奥州泰衡
向給 出 几 鎌倉出御勢一千騎也 此河の事一からり

○鐘摺の巻 あまの 八幡太舟 義家と奥列 征伐の時沙汰の巻の巻末迄をすんで

る上より馳るものさうなりしは鐘摺の巻をわたりと云ふなり

○鐘摺の川 川 十二百あり

○犀の淵 尾久の 犀の淵と云ふ

○龜戸

○龜戸 天満宮

別當管少僧都信政

延喜元年正月二十日左近太宰権帥延喜三年二月二十日

薨于配所 葬安樂寺 年五十九 正曆四年五月遣勅使於

宰府安樂寺 詔贈太政大臣正一位 神社考 天神御所高辻

北西洞院東洞院南又曰紅梅殿 五条坊門北町北野 御子家

或云天神御所 上圖の事 三後

と云 藤原を好く遣立あり 社殿宰府の傍をく

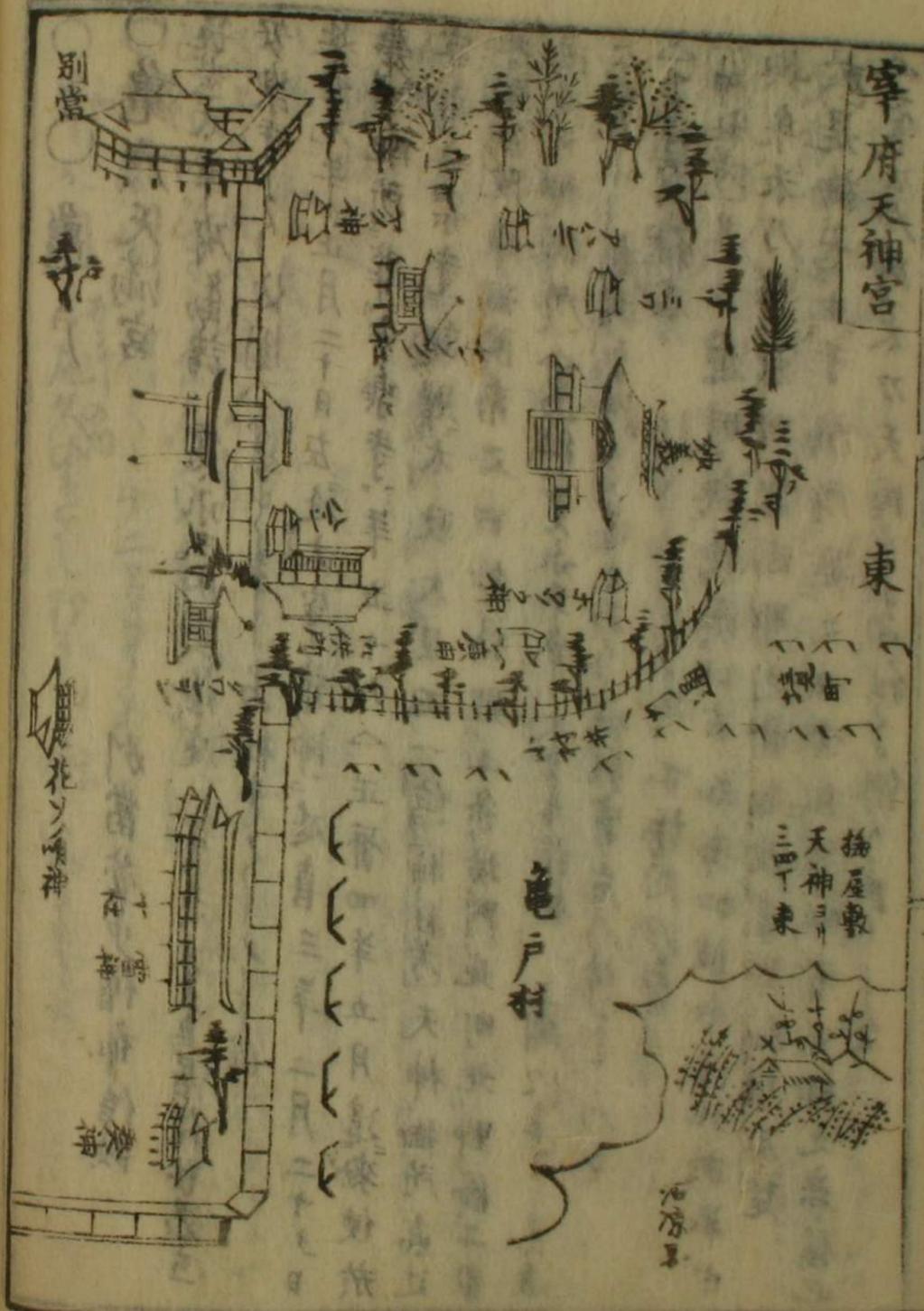
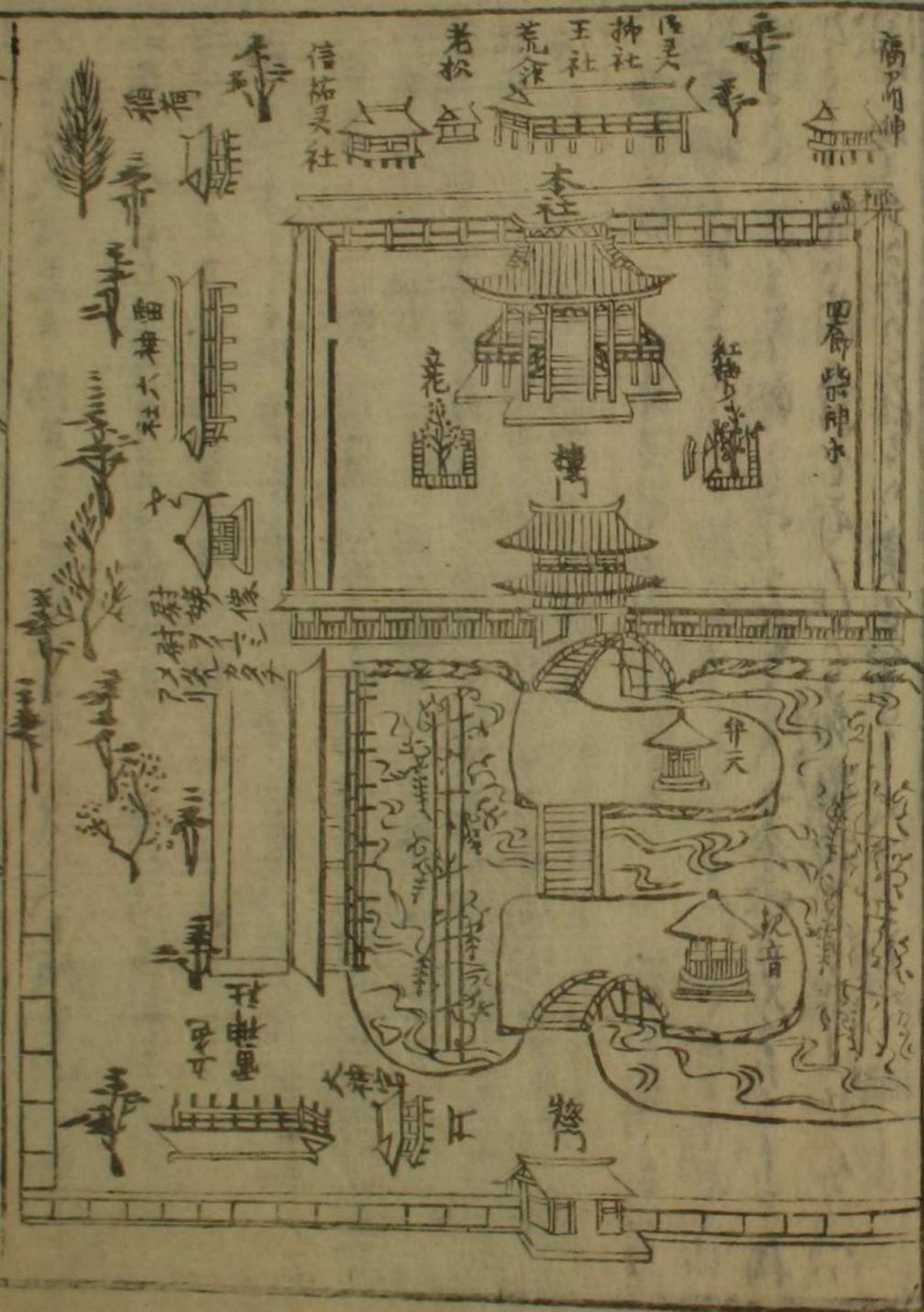
△七橋の雅本 はく 不境心あり

△神社考 其左遷時 詠梅歌 日古知布加波介保比於奉せ

與牟采乃波奈阿留志那之登底波妻那和須庚楚

於是梅毛生于謫所庭 又云老松明神者天神之眷屬也

△菅原公八洲太刀天國も此の社にありと云



△祭祀八月廿四日 隔年し名越後毒年六月廿四日儀章川に祀す

△菘 みじの池上より十余丈あり 高社なるをり

△題二橋雪 何半の御枕の谷に雪乃はり 北九條

△妙義社 上列妙義心をしりし此社に菅云御所の所法照坊

法照坊尊意僧正の應神帝の季丹生氏平安城の人天慶の頃より

恒照に云我年麻呂を御所の所法照坊の御所の所法照坊の御所の所法照坊

春秋七十四にて寂す △天神末社ハ湯よりあり

△梅屋敷 天神の三平東 借香菴 地聖寺在る 龜ノ内

臥龍梅と稱す 龍のありしと云ふに似て枝より枝に他

中より今も其を幹としてつらねしと云ふに似て枝より枝に他

近き頃河世妙も 子もさつと歩みかたなり 花の色赤も 御坊で

題臥龍梅 うらまや心の鱗乃志のく人め 菊田治涼

世よわく梅や紫標の具みみ 中徳立良

河のうらま老馬もいづれ梅の道 北尾千流

深うぬ梅乃長が治中カ橋り 菊田梅五

△志井 善善庵あり梅あり島の繪糸物 坪井千楓

△大横あり天个太平の文字と虫喰太平板と云へり

○志の井 取不詳

△古麻子 龜井と天神の近不表表のいれありしと云ふを治中

大ありけ梅をくくんとせし時大さき虫喰りありし

○東林山華藏院宝蓮寺 真言 寺傳蓮花寺末、龜三ノ

同山眞鍮法印 乾元二癸卯同基 吾妻森別当

本寺 虛室藏菩薩 安河孫の心 山内三虛室藏の心なり

所謂三佛ハ 小糸川 粮彩寺 白山西坂下正福寺 當寺し

足名なるかり 梅二乾元一年に改元し二年癸卯ハ乾元

元年し九十三代後二修院の修をし九百三十年程 享保十七年

○福聚山並日門院 真言 同不

本寺 大日如來 觀音堂

也寺より却温神咒經印絶カ、疫病除の守なり

△慈眼水 乃水なり 南条寺の寺風是殊勝也

○明王山東光寺 同不 寺傳蓮花寺末

○宝性寺 同不 寺傳蓮花寺末

○秀明院 同不 寺傳蓮花寺末

○施任畏山善毫寺 天台 金龜山末

○喬林山金藏院 天台 仲天弘法大師外 寺傳蓮花寺末

○龜命山慈光院 曹洞宗 寺傳蓮花寺末

○教智山淨心寺 淨土 再興主勢六世金龜上人 同不

○龜命山慈光院 曹洞宗 寺傳蓮花寺末 同不

○木下川 薬師堂 寺云云 青滝山津具寺 赤玉院

岡山道々大所 本寺信教大所 寺云云 龜毛川の二ノ口

北条氏康武藏野紀行 天文十五年 仲秋 比比 寺云云

中略 昔の所の左津具寺の長老 寺云云 寺云云

寺云云 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

松風入 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

松云云 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

○夕籠の観音 昔の所 寺云云 寺云云

文禄十八年 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

寺云云 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

寺云云 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

○利根川 武藏下流 坂東才の大河 俗坂東太郎

△松戸河内所 水戸右中 △栗橋河内所 日光道十河内

△五科 △実政 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

○かみねの淵 利根川 寺云云 寺云云 寺云云

寺云云 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

○此を東首西 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

○鶏大明神 花又村 寺云云 寺云云 寺云云

毎年土月 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

寺云云 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

○東首西 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

寺云云 寺云云 寺云云 寺云云 寺云云

△大門寺 因山ノ額ハ 大明院縁河被臨ト云

△道灌 寺極ノ様 大門ノ並本寺ノあり

△城山 徳寧寺ノのり一ノのふ毎層因里見義成ノ御所ト

△山ノ山ノ山ノ名ノ唐造トあり之ハ惟也ト云

△玉府堂ノ軍ト云ハ沙所ノのりトあり之ハ上ノり人ノり也ト云

△乃カヨト曝布ト云ハ 富志ノのりトあり之ハ上ノりつと云ク昔ノ

△中山 正中山本妙法華經寺 寺ノ寺名 真圓寺ノ東

△岡山 日常上人 直中寺 花談所ナリ

△園分茶所 云々ノりノりノりノりノりノり

△袖ノ浦 行徳ノ人ノりト云 又葛浦ト云

△大尾 入ノのりト云ト油ノ形ト云ト御ノりト云ト最ノ御ノり

六之巻軸

菊岡南僊奇沾涼自書

跋

古人有言 技書 如 風 葉 塵 埃 隨 掃 隨 有 誠哉 此編 易 稿 數 回 然 尚 不 自 以 爲 是 數 刪 定 每 一 過 目 輒 見 舛 遺 因 雖 考 舊 記 求 當 時 尚 非 無 遺 憾 焉 况 予 之 陋 識

寡聞 詭_レ免_レ乎 傷_レ觀_レ之 誹_レ笑_レ

崔下沾燕



享保十七_子歲仲夏吉旦

江府書林

日本橋南二町目

若菜屋小兵衛梓刊

